

第 0 回から・・・

1. 応用行動分析という方法論全体についての質問です。
 - 1) その扱う変数の特徴として説明してください。
 - 2) 応用行動分析は、応用行動分析自体を、科学的方法論として唯一のものであると主張していますか。Yes であるとすればその理由についてどのような論理を持っているか、No であるとしたら、どのような理由で応用行動分析の優先性を宣言しているのか。
2. 応用行動分析は、対人援助という実践を想定した場合、どのような点に留意しますか？
2つ挙げて、実際の例を挙げて説明してください。

第 1 回（行動分析学の基礎）

3. Epstein, R. (1996) "Insight" in pigeon . の実験は、「ケーラーの洞察学習」に対して、どのような主張をしようとしたものか。
4. 視覚や聴覚に較べて嗅覚（匂い）刺激で、昔の思い出が、よく蘇る理由を、レスポント反応の忘却と消去という用語を用いて説明してください。

第 2 回

5. 「社会が、障害を持つ人を、生まれながらの権利としてそして個人差のままに受け入れることを要請する・・・」というノーマリゼーションの理念と目標は、応用行動分析のことばで表現しなおすとどうなるか。そのように表現することのメリットはどのようなものか。
6. 「行動の成立の保障」に必要な実践的作業の機能を 3つ挙げてください。その3つの機能がどのように展開することで、社会における対人援助の進歩（あるいはノーマリゼーションの進歩）を実現することができるか？

第 3 回

7. 罰や負の強化によって行動を維持してはならない理由を挙げてください。
使うべきだと思ふ人はその理由を挙げてください。
8. 障害のある個人への対応の態度として、「×から 」ではなく「 から× 」と表現する趣旨について述べてください。

第 4 回

9. レジ袋の削減のためには、具体的にどのような方法をとったら良いでしょうか。「行動の原則」を意識しながらその例を示してください。

第6回以降

10. 以下は、Baer, D. (1998) が、重度の障害のある個人における自己決定を尊重するときの対応の留意点について述べたものです。下線部の文章を翻訳しなさい

The proposal is to develop our sensitivity to the various forms of communication used by people with severe disabilities so that we may do more of what they want and impose on them less of what we assume they want or want them to want.

11. 自己決定の成立のために、選択肢のあり方を象徴的に表す $A+B+R$ についての質問です。

1) A, B, R、は、どのような選択肢を表現したのですか？

2) このような選択肢の提供の機能を検証した実験例の内容を具体的に挙げて説明してください。

12. 行動的 QOL という考え方のもつメリットを、環境的 QOL、心理的 QOL と対比して述べてください。